

3L-10 Webページ制作演習におけるページデザイン技法の学習

有賀妙子
ARIGA Taeko
京都芸術短期大学

吉田智子
YOSHIDA Tomoko
京都ノートルダム大学

1 はじめに

インターネットの発展に伴い、高校・大学において、学習や研究を進める上での基礎力として、ネットワークを理解、活用する力の獲得が必要になっている。関連する科目では、電子メールを使って情報を交換したり、Webを使って情報を収集するだけでなく、情報発信学習の一環として、Webページの制作演習が取り上げられている。

Webページはディスプレイ上に表示され、読者との間でインタラクションをとりながら、読まれる文書であるが故に、レポートや論文など印刷物として読まれる文書とは違う「技法」がある。

Webページの制作を学ぶための教材として、Web制作上のガイドライン、インターフェースデザインのチェックリストを作成したので報告する。

2 学ぶ目的

ページデザインを学ぶ目的は、学生の情報提供能力の向上にあり、情報提供側の視点だけではなく、情報利用側の視点を考慮し、双方の目的が合致した情報発信を意識する必要性を学ぶ。情報メディアのひとつのとしてWebを対象とし、本学習を通して具体的には、下記のことができるようになることを目指す。

● 信頼性・可読性の高いWebページをデザインするのに必要となる情報デザイン、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)に関する事項(ガイドライン)を理解する。

● ガイドラインを考慮したページを作成する

● 作成したページをチェック、評価する

3 学ぶ内容

情報提供能力の高いWebページとは、よく練られ、構成された(well-organized)ページであり、かつよいHCIをもったページである。そこで、

well-organizedされたページ、よいHCIをもったページとはどんなものであるかを学ぶ。それぞれに次のような項目を含む。

- well-organized ... ページごとの構成、リンク(ナビゲーション)、テキスト、イメージ
- HCI ... 一貫性、操作性、明瞭性、読者の目的との合致性

情報提供能力の高いWebページを作るには、よいものを見るのが一番であるが、学生達がよく訪れる企業・組織のページには、印刷物の枠組みをそのまま持ち込んでいるか、不要な要素が散在するものが多い。見た目きれいなページがかならずしもいいページではないことも認識しながら、Webページデザインをインタフェースデザインと関連しながら学ぶ。

リンク	リンク先の内容がわかるリンク文字列を使っているか
	内容から外れた無意味なリンクはないか
	サイト中のどのページにいるかがわかるか
	各ページに、ナビゲーションバーがあるか
	内容につながりのあるページに、前後ページへのリンクがあるか
テキスト	トップページへのリンクがあるか
	重要なことはページの上部に書いてあるか
	機種依存文字、1バイトカタカナを使っているか
	適切な段落分けがなされているか
	他人の引用は、それとわかるようになっているか

表1 well-organized関連項目の一部

Teaching Web Page Interface Design

ARIGA Taeko, Kyoto College of Art

YOSHIDA Tomoko, Notre Dame Women's College, Kyoto

4 学ぶ手段

Webページを企画、設計、制作、テストするという過程を通して、上で述べたことを学ぶ。関連する重要な過程は設計とテストである。

設計の過程で、ページの信頼性や可読性を高めるために留意すべき事項を学び、テストの過程でそれをチェックする。テストの過程では、2種類のチェックリストを使い、well-organizedされたページであるか否かの観点からのチェックと、よいHCIをもったページか否かのチェックを行い、制作したページを評価する。

(1) well-organizedの観点

イメージの代替文字列や引用の明記などエチケットに属する項目から、ナビゲーションに関する項目まで、主にページの記述に関する項目について、改善が必要か否かをチェックする。リンク、テキストに関連する項目を表1に例示する。

(2) HCIの観点

人とのインタラクションをもつドキュメントとしての側面を一貫性、操作性、明瞭性、読者の目的との合致性といった項目からチェックする。表2に一貫性と操作性に関する項目を例示する。

(1) の項目と内容的に重なるものもあるが、イ

一貫性	サイト全体を通して、字体、色の使い方は一貫しているか(リンクや強調などの字体や色はどのページも同じか)
	省略語、用語など文字情報はサイト全体を通して一貫しているか
	アイコン、イメージなどの扱いは、サイト全体を通して一貫しているか
	指示、メニュー、ナビゲーション、見出しなどの同一種類の情報は統一された形式で提示されているか(同じ位置、同じ形など)
	同じ種類の情報は、同じ形式で表示されるか
	ナビゲーションの操作はサイトを通じて、一貫性を保っているか
操作性	簡単に前のページに戻れるか(直前に表示されたページではなく、内容的に前のページ)
	どのページにしようとも、簡単にトップページに戻れるか
	必要とされる内容が簡単に見つけられるか

表2 HCI関連項目の一部

ンターフェースの視点から確認し直すことに意義がある。

5 まとめ

授業課題としてのWebページ制作では、

- ・ 調査・研究に科目の重点があり、Webページを紙メディアでのレポート代わりに使う場合
- ・ Webページの制作自体に重きがある場合

があろう。本報告は後者にあたり、新たにページを企画・制作する過程で、Webの特性を踏まえた情報デザインを学ぶ。このような科目では、制作したページがブラウザ上で見れることだけで満足し、完了することになりがちである。提案したチェックシートを使って、制作したページを情報デザイン、ならびにインターフェースの観点から評価するステップを踏むことは重要であると考ええる。

また、調査・研究に重点があるWebページ制作でも、このチェックシートは制作のガイドラインとして使えるだろう。

HTMLの解説本にも、イメージの代替え文字列や大きさなど、さまざまな注意事項が記されている。しかし、それらは単にタグの文法解説に留まっている。情報を伝達するWebページの制作を教えるという教育的立場に立った場合、それでは十分ではない。きちんと構成された情報を提供する情報デザインとして、読者とのインターフェースとして、Webページを理解するための知識を教育することが必要である。

チェックリストを使い、これらの点を強調してWebページ制作演習を行う前では、文字とイメージをとりあえず貼り付けただけというページが多かったが、現在では、情報デザイン、インターフェースとしては最低限のガイドラインをクリアしたページが制作されるようになった。

【参考文献】

- [1] Patrick J. Lynch, Sarah Horton, Web Style Guide, Yale University Press, 1999
- [2] 有賀妙子, 吉田智子, インターネット講座, 北大路書房, 1999
<http://www.tomo.gr.jp/Internet>
- [3] 有賀妙子, 吉田智子, ネットワークリテラシー教育のシラバスと教材研究, 情報処理学会コンピュータと教育研究会50-4, 1998